

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	高橋吏良	所属	筑波大学附属病院
研究会等名称	日本心理学会メディア心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 対面参加者 会員 105名（うち認定心理士 自由参加のため不明） 非会員 8名（うち認定心理士 0名） オンライン参加者 56名（うち認定心理士 自由参加のため不明）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>目的 心理関係者はメディアを通じてプレゼンテーションを行う機会もあるが、多くの人にわかりやすく伝えるスキルを習得する機会は少ない。これまで心理系の学会においても、良い内容であるにもかかわらず、“ぼそぼそしゃべっている”“どこがポイントなのかわかりにくい”など、「伝わりにくい」という残念な発表も存在した。また、with コロナ時代はオンラインでのやりとりも増えている。オンラインではリアル対面より、よりわかりやすく話さないと伝わりにくい。そこで、より人に伝わる話し方を心理関係者と検討する機会を持った。メンタルヘルス研修などで講師をつとめる際のフロアの人たちに対する心のつかみ方についても考察した。さらに、学会では「フロアからの質問が苦手」という人も多い。それに対しては「どんな質問にもズバリ答える」という講師をお迎えして、相手の心理に配慮して伝える技術や極意を聞いた。</p> <p>成果 参加者への事後アンケート調査から、日本心理学会学会員が、伝わりやすい学会発表を行えるようになるだけでなく、メンタルヘルス研修など、様々な場面で使えるアナウンス技術やプレゼンテーション方法を学べたと考えられる。フロアからの質問を恐れる発表者は少なくないが、入念な準備と相手に対する洞察力、質問内容の分類、相手のニーズに答えるポイントを知ること、自信を持って発表できるようになりそうだ、というコメントもあった。臨床でかわったり、研究に取り組んで来たことを自信を持って発表したりすることができれば、本人の励みにもなり、よりクオリティの高い、教育、研究、臨床につながることを予測される。心理関係者全体の底上げにもなったと考えられる。</p>		

(様式5)

2024年 4月 30日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 日本心理学会メディア心理学研究会

研究会番号 23026

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年9月11日	シンポジウム（チラシ・フライヤー）2000部	¥7,249
2023年9月12日	シンポジウム（ポスター）2部	¥5,535
2023年9月26日	シンポジウムオンライン配信撮影オペレータ	¥33,000
支出合計		¥45,784